

特集

海外のユースセンターを見に行こう!



今号では、海外のユースワーク・ユースセンターについて
ご紹介します。

世界では、若者に対してどのようなユースワークを行い、
どんなユースワーカーが活躍しているのでしょうか。

今年度、当協会が科学研究や視察対応などで交流、繋
がりのある、イギリス・フィンランド・韓国のユースセンター
にご協力いただき、若者へのアプローチ・事業内容・ユース
ワーカーの想いなどなど、国を越えて、共通する「ユースセ
ンターの意義」をお届けします。

P10・11

寄稿

『「ユースワーク」を読み解く視点』
両角 達平（日本福祉大学）

ぷちメッセージ

若者と地域

下京青少年活動センター 運営協力会
京都市下京区社会福祉協議会
会長
松山 健治



私はユースサービス協会との出会いは、2001年、元格致小学校に
ユースサービス協会の事業所である「ユーススクエア高辻」が置か
れたことに始まります。

当時、私は、格致学区の少補支部長から社会福祉協議会の会長を
担う時期で、地域の子どもたち保護者から高齢者を中心とした取り
組みまで幅広くかかわりを持つ時期でした。

学区の夏祭りや少年補導の行事に対して「ユーススクエア高辻」
を通して、学生ボランティアの力を借りる道が拓け、若者の豊
かな発想力やエネルギーを感じながら一緒に活動できたことが、地
域の貴重な財産になっていると感じています。

今年度、下京区社会福祉協議会の会長となり、下京青少年活動セ
ンター運営協力会の一員として再びフレッシュな皆さんと一緒に
きることを、本当にうれしく思っています。コロナ禍を経て、地域
のつながりの希薄化や、若者も含めあらゆる世代での孤独孤立が課
題となっています。ほっとできる空間、たのしい時間を共有するこ
とで、同じ地域に暮らすだれもが、世代や属性も超えて緩やかにつ
ながっていけるよう、皆さんとともに歩みを進めたいと思います。

YOUTH VOICE

ユースセンターとわたし 田中 桃奈（大学4回生）



私は、東山青少年活動セン
タ事業「東山アートスペース」と
「からだではなそう」という障がい
のある方対象のプログラムのボラ
ンティア活動をしています。

アートスペースのボランティア

を始めた頃、ナビゲーター他のボランティアが「今日のテーマ気
分じゃないな～って思ったら、違うことで考えてみるのもありだよ!」
と声掛けをしたり、アルミホイルを使った創作の際には「感触が嫌
だったら別の素材使おう」と話したりしていたことが、私の中では衝
撃でした。実際、動物の創作がテーマの回でも、動物づくりはそこ
そここに自分の好きなモチーフを中心に作っている参加者もいれば、用意されたもの以外にも自分から積極的に素材を探しにいく参
加者もいて、アートスペースが「何かものを生み出す」「皆がテーマ
通りにつくる」ことではなく、「この空間で創ることが楽しい、好
き、と思ってもらえる」ことを大切にしたプログラムであることを知
りました。

そんな印象からスタートしたボランティア活動が、気づけば3期連
続での参加となり、参加者やボ
ランティア同士の関わりの中で、
自由な創作の面白さや交流の樂
しさが、着実に今の自分の活動
に活きていると感じています。



公益財団法人 京都市ユースサービス協会は、京都市内7カ所の青少年活動センターと、子ども・若者総合相談窓口、生活
困窮世帯の学習支援事業、社会的養護自立支援事業の一体的かつ効果的な運営を指定管理者として受託しています。青少
年活動センターは、それぞれの施設・設備に特徴があって、様々な事業活動をしています。また、厚生労働省から若者サポー
トステーションの運営を受託し、若者の社会的自立や職業的自立に向けた支援も行っています。

ユースサービスの理念

「ユースサービス」とは、子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援することです。おたえる
子どもたちが家庭、学校、地域社会、職場などを通じて成長し、自分自身の興味や関心を高める過程で、必要に応じて助言や
情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。そして、青少年自身の積極参加によって、青少年と協
働の豊かな地域社会を創り出すことを目的としています。



インスタ
フォローしてね!



韓国



韓国青少年事業総連合会は、NCS(国家職務能力標準)ISC(産業別人的資源開発委員会)事業を基盤に青少年活動、保護、福祉に関する専門家である青少年指導士、青少年相談士の権益擁護と力量強化を目的に運営されており、青少年活動事業と研究事業を主としています。青少年に関連する40以上の機関で構成されており、その会員機関と事業を紹介します。

ソウル特別市立ボラメ青少年センター館長
Jun-Gun Kwonさん

青少年活動施設 青少年センター

青少年の幸せな成長のための

市立ボラメ青少年センター

青少年の成長と発達を支援する

市立麻浦(マッポ)青少年センター

ソウル銅雀区にあり、ソウル特別市が運営している機関として1986年度に開館し、青少年のための多様な教育活動を進めています。ソウル特別市評価で最優秀等級、教育部教育寄付道路体験認証機関及びソウル特別市教育厅ソウル学生の学び場認証機関として真理、愛、献身の理念の下、青少年たちの幸せな成長のための活動保護福祉事業を進行する青少年総合支援センターです。

合計13の分野で、青少年が多様な教育活動に参加する機会を提供しています。



ボラメ青少年センター



気候環境プログラム



青少年国際交流プログラム

特徴的な事業は放送文化コンテナツ製作所で、脚光をしている文化コンテナツ産業時代に放送、メディア、文化コンテナツの制作活動を通じて芸術的感覚を育み、創造力を発揮するために青少年の成長を支援しており、YNBC青少年放送局を運営し、青少年たちのコンテンツ企画、撮影、編集、制作、広報、マーケティングなどの専門的な放送、メディア活動を提供しています。

また、青少年成長支援活動(参与、体験、キャンプ、祭)生活体育と生涯学習プログラムの運営を通して、青少年や地域住民のための多様な地域社会での体験、学び、分かち合いのハーバーな役割を担っています。

事業は計5分野25地域185プログラムを運営しています。



麻浦青少年センター



YNBC青少年放送局



青少年キャンプ



青少年保護福祉施設 青少年シェルター

青少年の「安全なデジタルメディア世界」のための
市立麻浦インタークネット依存予防相談センター

ソウル特別市にあり、市が運営しています。

2010年度に開館し、青少年のデジタルメディアへの依存レベル別のリスクに応じて、専門的相談、治療、予防活動、専門家養成、デジタルメディア過依存研究などを実行する予防専門相談機関です。

相談チーム、教育研究チームに分かれています。事業は5分野、24プログラムを運営しています。

心理相談、治療、予防教育、代案活動、専門家養成、広報、認識改善、その他事業



専門家スーパービジョン



専門家養成課程

予防教育、代案活動

専門家養成課程

予防教育、代案活動

青少年保護福祉施設 青少年シェルター

家庭外および危機青少年の健康で安全な成長を支援する
市立一時青少年シェルター(移動型、東北)

ソウル特別市が運営する機関で、2014年度に開館し、ソウルカンナム地域を訪れる青少年の移動シェルターです。本機関はソウル特別市及び女性家族部評議優秀機関として複数回選定されており、家庭外青少年の早期発見、家出予防キャンペーン、相談、食事、健康支援、緊急保護を通じて、街中の青少年が安全で健康的に家庭や社会の一員として成長できるよう支援する機関です。

事業チーム、運営支援チームに分かれています。事業は7分野、21プログラムを運営しています。

一時青少年シェルターモービル
地域社会連携事業
アウトリーチ事業
資源活動家運営事業
特別支援事業



一時青少年シェルターモービル



地域社会連携事業



アウトリーチ活動



刺青除去 特別事業

青少年保護福祉施設 青少年支援センター

学校外青少年たちは私たちが守る
恩平(ウンピヨン)区青少年支援センター

ソウル特別市の恩平区に位置し、学校外青少年がより健康な社会構成員として成長できるよう、個別的な特性やニーズを考慮して様々なプログラムを支援する機関です。

センターは、相談支援、教育支援、職業体験及び就職支援、自立支援などの多様な領域で、学校外青少年の円滑な自立基盤の構築に努めています。

(翻訳・松岡江里奈)



検定試験対策メンタリング



インターンシッププログラム

青少年保護福祉施設 青少年支援センター

学校外青少年たちは私たちが守る
恩平(ウンピヨン)区青少年支援センター

ソウル特別市の恩平区に位置し、学校外青少年がより健康な社会構成員として成長できるよう、個別的な特性やニーズを考慮して様々なプログラムを支援する機関です。

センターは、相談支援、教育支援、職業体験及び就職支援、自立支援などの多様な領域で、学校外青少年の円滑な自立基盤の構築に努めています。

以上は、ホームページ<http://www.ep1318.or.kr>に詳細な事業内容が掲載されています。ぜひご覧ください!

「ユースワーク」を 読み解く視点

両角達平（日本福祉大学）



両角 達平
(もろぞみ・たつへ)

88年生まれ長野県出身。日本福祉大学社会福祉学部専任講師。若者の社会参画について、ヨーロッパ(特にスウェーデン)の若者政策、ユースワークの視点から研究。主な著書に『若者からははじまる民主主義』(萌文社)、共訳書『政治について話そう!』(アルペカ)、『若者の権利と若者政策(共著)』(明石書店)がある。

※1両角達平、津富宏、「「ユースワーク・欧洲評議会・閣僚委員会」により2017年5月31日に採択された勧告CM/R ec(2017)4及びその説明のための覚書」〔翻訳〕、国際関係・比較文化研究20, no.

ユースワークに限らず、教育や福
祉などあらゆる対人の実践を伴う領
域において、海外の事例を知ることの
意義は大きいです。なぜなら、文化や
歴史の差異があるにもかかわらず、
共通点を見出すことで、それを日々の
実践の励みにつなげたり、指針とする
ことができるからです。また、違いを
見つけることで、普段の現場の実践を
相対化し、問題点を検証することも
可能です。本稿では、海外のユース
ワークを読み解く際に、2つの視点を
提案します。まず第1は、ユースワー
クの対象とアプローチが何型かとい
う点です。第2の視点は、社会の状況

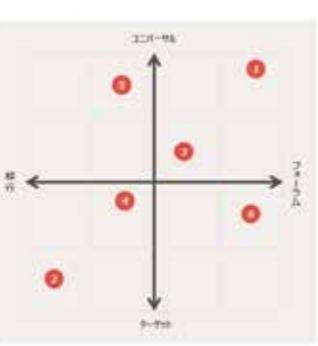
ヨーロッパで若者政策が確立した理由

ユースワークは思春期以降の子ども、若者にかかる活動の総称と言われています。日本においては、伝統的には日本の青少年教育と欧米のYMCAs、ボーリスカウト運動などの活動がひらくことになります。

はどうかという視点です。

ヨーロッパの政策が

社会に適用させるための教育や移行の支援を想定しています。フォーラム型のユースワークは、社会のあり方や方向性自体を若者と問い合わせ、議論し、社会問題 자체を定義し直すという考え方に基づいています。これら2つの軸を交差させ、「二次元マップ」にしたもののが図表1です。



図表1:ユースワークを捉える2軸

「若者や社会の状況はどうか?

2つ目のユースワークを読み解く視点は、社会の状況はどうかと
いう視点です。世界のユースワーク
の事例を知る際には、支援者や
ユースワーク組織が何をしている
かという視点に偏りがちです。し
かし、そのような目線だけではな
く、若者とユースワークを取り巻
く社会の状況を捉える視点も忘れ

指標	イギリス	フィンランド	韓国	日本
総合(41カ国中)	15位	5位	32位	30位
住居	20位	22位	7位	26位
所得	7位	18位	22位	21位
雇用	12位	16位	19位	15位
コミュニティ	22位	4位	38位	32位
教育	25位	1位	11位	14位
環境	19位	2位	38位	21位
市民参画	6位	23位	2位	39位
健康	17位	21位	37位	35位
人生の満足度	19位	1位	35位	31位
安全	13位	6位	11位	16位
ワークライフバランス	28位	16位	35位	37位

図表2:OECDより良い暮らし指標

ヨーロッパにおける

係を持ちながら発展してきました。もともと「ユースワーク」という言葉はイギリス発祥であり、ヨーロッパ各地で様々な若者と関わる活動が展開されてきました。ユースワークが汎歐州の若者政策の領域で広がったのは3つの背景があります。

1つ目は、若者の参画と包摂への対応です。1960年代にヨーロッパにおける学生運動の機運が高まり、若者が参画を要求しました。また1970年代には、若者の失業率が上昇したことで、社会的弱者としての若者を包摂するという若者政策の分野が確立しました。2つ目は、汎歐洲評議会やEJUなどの汎歐州を統合する動きができた点です。それに相まって、若者政策もこれらの国際機関において確立していくことで、ヨーロッパ全体で若者政策が広がつていったのです。そして、2009年に汎歐州の政策の実践主体にユースワークが位置づけられました。これらの背景を受けて、汎歐州ベルにおける若者政策の中でユースワー

2つの軸

欧洲におけるユースワークは様々ですが、ユースワークを理解するための2つの軸がこれまで議論されました。1つ目がユーバーサルとターゲットという、ユースワークの対象でわけた軸です。ユーバーサルは万人向けのアプローチであり、誰にでも開かれたものです。他方のターゲットは、特別なニーズを持つ若者に向けて展開されるアプローチであり、個別化されたサポートを提供します。ユーバーサルアプローチは健全育成的であり、福祉国家や北欧、1960年代から70年代のイギリスなどの文脈で展開され、普遍的な権利を基盤としています。一方、ターゲット型は自由主義国家的なアプローチであり、社会的排除層としての若者を対象としています。また、ターゲットアプローチは、教育や訓練、就業への参加、そして支援が個別化されているという特徴を持っています。^{※2}

もう1つの軸が、ユースワークがどのような考え方に基づいて展開されているかという軸であり、これには移行型、フォーラム型があります。移

**ヨーロッパにおける
ユースワークとは？**

改めて、ヨーロッパにおけるユースワークはどのように語られているのでしょうか。2015年の欧洲ユースワーク大会では、「若者のための空間を作ること」と、「若者の人生に橋をかけること」がユースワークの要素とされました。また、2021年の欧洲評議会によるユースワークの定義は、「グループあるいは個々での若者による、若者と共にを行う若者のための社会、文化、教育、環境、政治的な性質を持つ様々な活動をカバーする広義の用語」とされました。そして、ユースワークは、「有償もしくはボランティアのユースワーカーによって提供され、若者と若者の主体的な参加に基づく」とされました。そして、「本質的には社会実践であり、若者が生きる社会に働きかけ、若者が地域社会に貢献することを足すするもの」とされていました。

ではありません。例えば、同じヨーロッパにあるフィンランドやイギリスでも、イギリスは新自由主義の波を受けてユースワークが切迫した状況にあり、他方のフィンランドはユースワーク施策は手厚いといわれます。しかし、ユースワーク環境に関するマッピング調査によると、フィンランドと英國（イングランド）は、ユースワークの社会的な認知度、教育やキャリアパス、経済的支援の有無、「ミュニティの有無で同様^{※3}」とされています。

一方で、なマクロの視点でフィンランドやイギリス、韓国、日本の若者の状況を比較すると、国^{※4}ごとに異なる社

会的な要素が影響を与えてくる」と
がわかります。例えば、より良い暮らし
し指標という、経済協力開発機構
(OECD)が2011年に発表した
指標は、GDPに代わる指標として
国民生活に関わる11の分野を数値化
し国民の幸福度を測定しています。
この指標によると、フィンランドは総
合で1位であり、イギリスは15位、韓
国は32位、日本は30位となる状況で
す。(図表1)

※ Mr.Taru Marti,Ewa Krzaklewskau
Tanya Basarab.Youth worker
education in Europe : Policies,
structures,practices.Council of

指標の内訳を見ると、各国の強みや特徴が浮かび上がります。フィンランドはコミュニケーション（社会関係資本など）、教育、環境、人生の満足度において上位に位置しており、韓国とイギリスは市民参画の度合いが比較的高いとされています。このようにしてマクロの視点を考慮すると、各国で展開されているユースワークのその背景や社会的な意義づけが異なることが理解できるようになるでしょう。今後の海外のユースワーク事例を読み解く際の参考にしてみてください。